

7. たすけあい

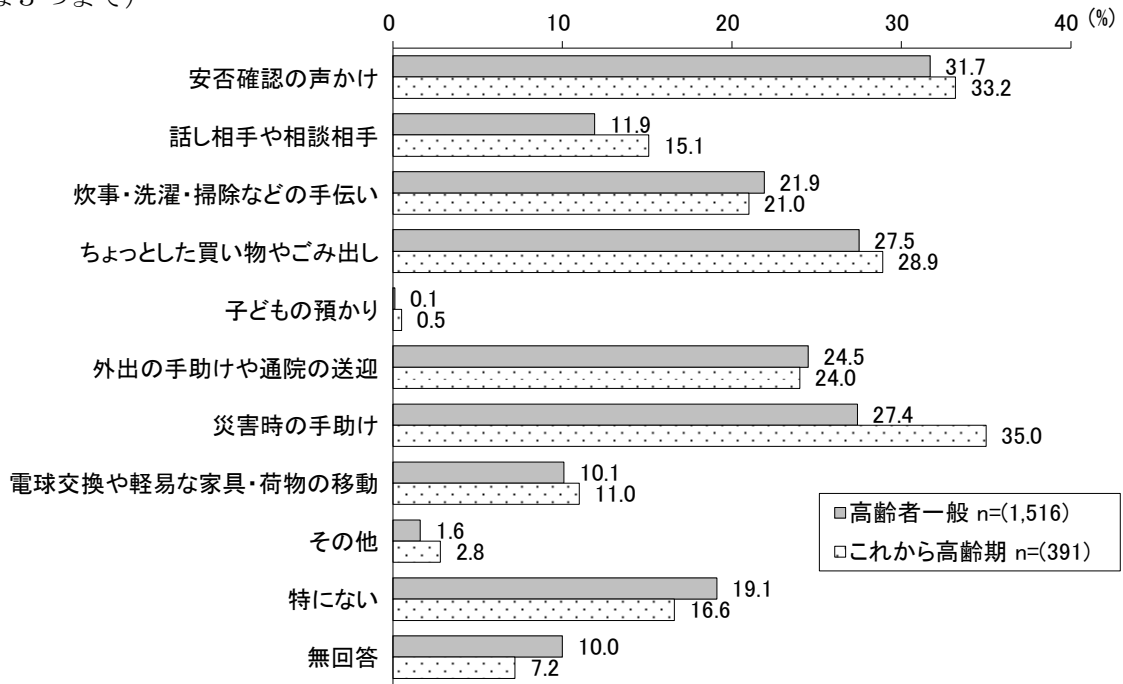
(1) 手助け

①地域の人たちにしてほしい手助け

○高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにしてほしい手助けは、高齢者一般では、「安否確認の声かけ」(31.7%)が最も高く、次いで「ちょっとした買い物やごみ出し」(27.5%)、「災害時の手助け」(27.4%)の順となっている。

○これから高齢期では、「災害時の手助け」(35.0%)が最も高く、次いで「安否確認の声かけ」(33.2%)、「ちょっとした買い物やごみ出し」(28.9%)の順となっている。

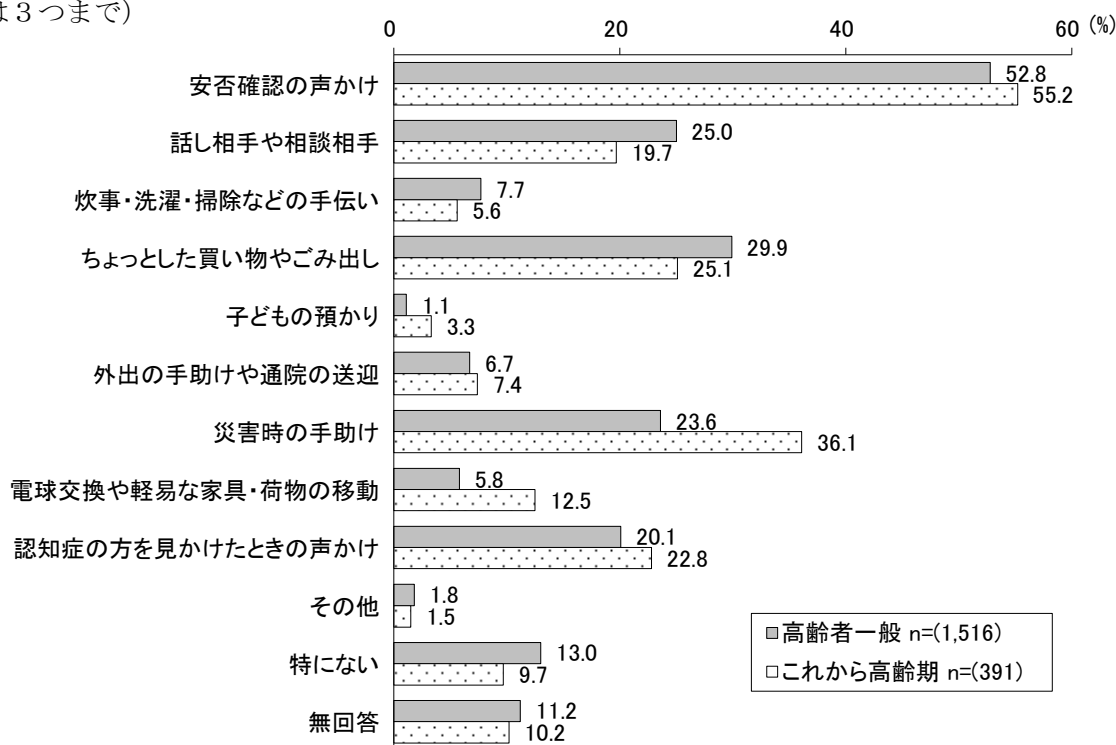
(○は3つまで)



②地域の支え合いとして自身ができること

○高齢者一般、これから高齢期ともに「安否確認の声かけ」が最も高く、それぞれ52.8%、55.2%となっている。次いで、高齢者一般では、「ちょっとした買い物やごみ出し」(29.9%)、これから高齢期では、「災害時の手助け」(36.1%)が高くなっている。

(○は3つまで)

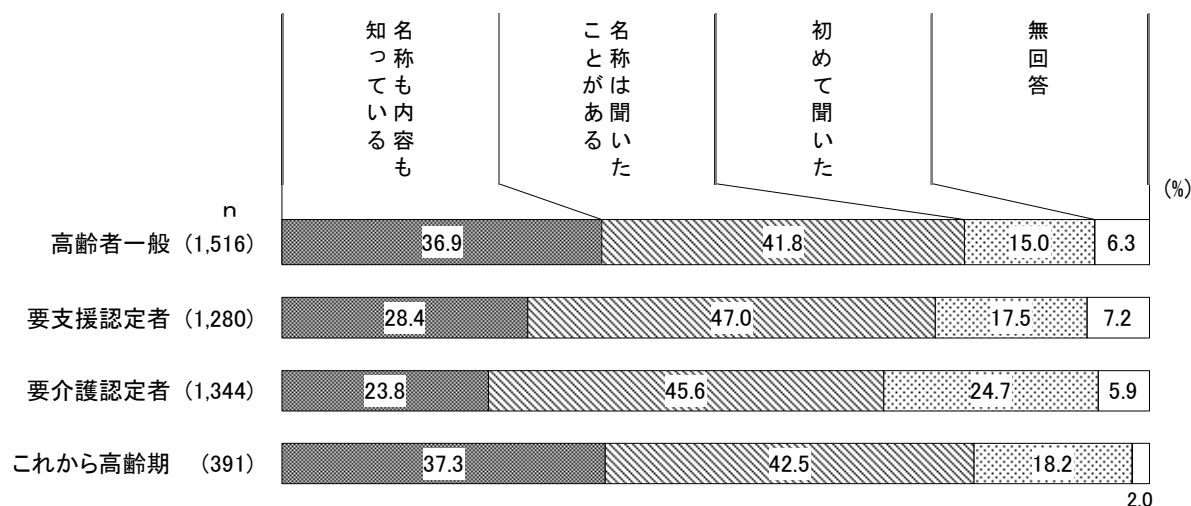


(2) 成年後見制度

①成年後見制度の認知度

○「名称も内容も知っている」は、高齢者一般で36.9%、要支援認定者で28.4%、要介護認定者で23.8%、これから高齢期で37.3%となっている。

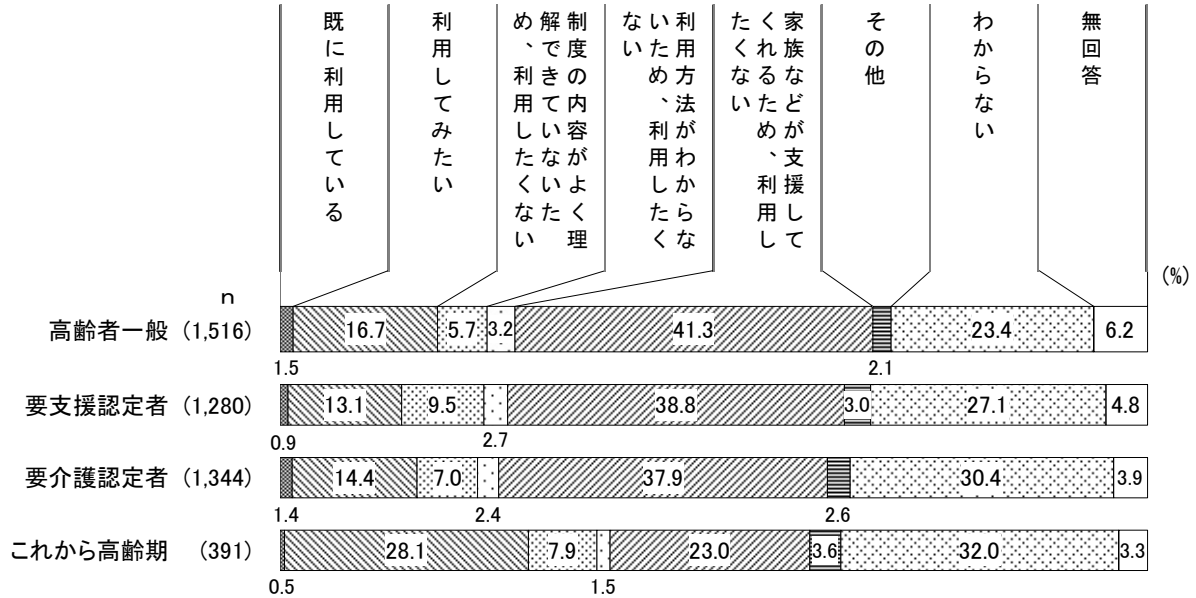
○「初めて聞いた」は、高齢者一般で15.0%、要支援認定者で17.5%、要介護認定者で24.7%、これから高齢期で18.2%となっている。



②成年後見制度の利用意向

○高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者では、「家族などが支援してくれるため、利用したくない」が4割前後で最も高くなっている。

○これから高齢期では、「利用してみたい」が28.1%と他の調査と比べて高くなっている。



[子どもの有無別 / 高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者]

○子どもの有無別にみると、高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者ともに、『いない』は、「利用してみたい」が『いる』と比べて高くなっている。

		(%)							
	n	既に利用している	利用してみたい	め解制、で度の利きの用てしい容がよくない	ない利用め方、法がわしかたくな	たく家族などが支援して	その他	わからない	無回答
高齢者一般	1,516	1.5	16.7	5.7	3.2	41.3	2.1	23.4	6.2
いる	1,211	1.4	14.9	5.0	2.8	46.6	1.7	21.7	5.9
いない	281	1.4	24.6	8.5	5.0	19.9	3.6	31.0	6.0
要支援認定者	1,280	0.9	13.1	9.5	2.7	38.8	3.0	27.1	4.8
いる	1,034	0.8	11.7	8.9	2.7	43.2	2.5	26.2	4.0
いない	189	1.6	18.5	12.7	3.7	18.0	5.8	34.9	4.8
要介護認定者	1,344	1.4	14.4	7.0	2.4	37.9	2.6	30.4	3.9
いる	1,100	1.2	12.5	6.3	2.2	41.9	2.3	30.4	3.3
いない	184	2.2	22.8	12.0	3.8	21.2	5.4	29.9	2.7